



えい けい  
叡啓大学  
EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

ソーシャルシステムデザイン学部  
ソーシャルシステムデザイン学科

EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA



# 未来を啓く学びが、 ここにあり。 叡啓大学

# ソーシャルシステムデザイン学部／ソーシャルシステムデザイン学科 2021年4月開学

## あなたの未来を、社会を、デザイン。

10年後、20年後の社会は、どうなっていると思いますか。  
人口減少やグローバル化、AIなどの技術革新が急激に進み、  
想像もつかない世の中になっているかもしれません。  
また、「人生100年時代」と言われる中、単線型の人生でなく、  
教育と仕事を行き来するなど、マルチステージの人生への変化が予想されます。

だから、私たちは、新しい大学を創ります。  
こうした世の中を生き抜くための土台・基盤となる学びを提供し、  
人生を通じて学び続ける力・姿勢を育てることができる、そんな大学を創りたいと考えています。  
「何を知っているか」ではなく、「知識を活用し、他者と協働しながら、新たな価値を生み出せるか」。  
そこに重点をおいた新しい教育で、予測不可能な時代を切り開いていくことができる人材を育てたいのです。

学生には、社会における様々な仕組みを理解した上で、自ら課題を発見し、  
解決策を立案して実行することで、新たな価値を創り出し、  
社会にイノベーションを起こして欲しい。  
それが「ソーシャルシステムデザイン」だと考えます。

あなたがデザインするのは、どんな社会でしょうか。ぜひ私たちに教えてください。



学長予定者 有信 睦弘

### Profile

1976年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了(工学博士)。東京芝浦電気株式会社(現・株式会社東芝)研究開発センター所長、執行役常務などを経て、2009年に横浜国立大学理事、10年に東京大学監事、14年に理化学研究所理事。18年4月から東京大学執行役・副学長(2021年3月まで)。文部科学省中央教育審議会委員、同大学院部会部会長、同大学分科会将来構想部会委員、日本技術者教育認定機構(JABEE)顧問などを務める。

### 育成を目指す人材像

先行きが不透明な社会経済情勢の中で、地域社会や世界に貢献する高い志を持ち、  
解のない課題に果敢にチャレンジし、粘り強く新しい時代を切り開いていく人材

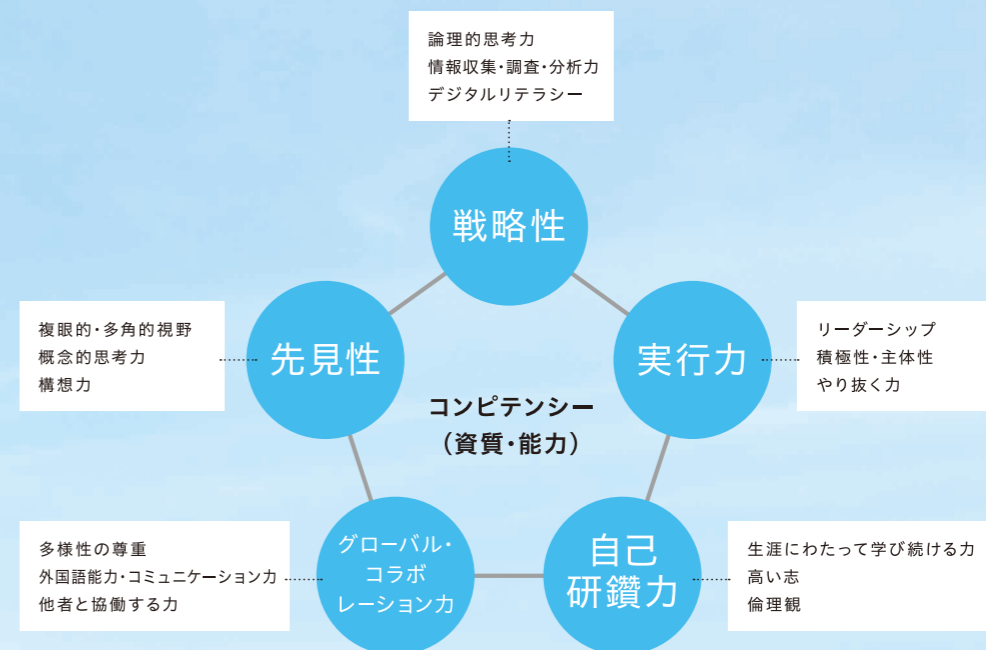
### 本学の教育

個人や個別企業などの利益や成長だけではなく、社会全体としての価値の創造を目指し、  
持続可能な開発目標(SDGs)を念頭に、経済・社会・環境を巡る様々な課題に対して、  
経済的価値と社会的価値を同時達成できるような統合的な解決策を立案できる力を育成します。  
そのために、本質的な課題を発見できる「先見性」、解決策を立案できる「戦略性」、  
自らリーダーとしてやり抜く「実行力」、高い志を持ち学び続ける「自己研鑽力」、多様性を尊重し  
他者と協働する「グローバル・コラボレーション力」の修得を目指します。

本学の目指す人材育成を実現するため、次のコンピテンシー(資質・能力)を身に付けたと認められる者に学位を授与します。

### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

先見性	幅広い教養を基盤とする複眼的・多角的な視野を養い、グローバルな視点から将来を見通し、概念的思考力などを用いて、社会の変化がもたらす本質的な課題を発見する力
戦略性	デジタルリテラシーを基盤に、探究心を持って新しい情報や知識の収集・調査・分析を行い、論理的思考力などを用いて、統合的な解決策を戦略的に立案する力
グローバル・コラボレーション力	個人や社会の多様性を尊重し、外国語能力やコミュニケーション力を駆使して、異なる文化・価値観などを有する他者とも相互に信頼関係を構築し、協働する力
実行力	リーダーシップを持って何事にも主体的・積極的にチャレンジし、困難に直面してもあきらめずに最後までやり抜くことを通じて、物事を実行する力
自己研鑽力	高い志と倫理観を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢を通じて、自己を高める力





## 「いまある社会を知る」よりも

## 「これから社会を前向きに変える」を学びたい。

ソーシャルシステムデザイン学部は、そんな熱い想いを持つ人に応える学びと実践の場です。

ソーシャルシステムデザイン学は、社会で問いを設定し、解答を自ら探求するための方法論です。ソーシャルとは「社会」、チーム、クラス、おしゃべりの輪、会社や国際機関のように、人々が目的と意図を持って創り出す仕組みのこと。システムとは「つながり」、布と糸と針から着物が紡ぎ出されるように、人や人が創り出したモノやコトを新しい「プラス」のために結ぶこと。デザインとは、日記に書く絵入りの未来予想図のように、「夢を現実に行き届くように具体的に描くこと」。社会にあふれる「問い」を見つけ出し、じぶんごととして「答え」を提案する。だから、「社会×つながり×夢の実行図=行動する科学」なのです。世の中の幸福の向上が目的です。

ソーシャルシステムデザイン学は、ここ数十年間で確立された新しい科学の体系でもあります。その学問的基礎は、持続可能な開発目標 (SDGs) を意識したリベラル・アーツ (知の総合諸科目) を根底に、システム思考とデザイン思考で組み立てられています。つまりは「木を見て森も見る」思考と「社会課題に対して前向きに解を協働で提案する」思考です。日本で初めての学部が2021年によく、世界平和希求の源泉地でありイノベーションの厚い伝統がある広島を中心に誕生しました。

叡啓大学は「人と社会を前向きに変える人財 (チェンジ・メーカー) を育てる」22世紀型大学です。

教職員も学生も、応援して下さる大学関係者や地域のみならず、そしてすべてのステークホルダーの方々が熱い想いと優れた知見を持って、素晴らしい行動を起こしておられます。

その行動の舞台は国際 (グローバル) × 地域 (ローカル) のグローカル。広島から地域へ・世界へ、地域と世界から広島に、学びと実践のベクトルは直接行き来します。入学者は卒業までに、社会を変える「実践力」と社会を生き抜く「国際教養力」を、能動型学修 (アクティブ・ラーニング) で体系立てて体得します。広島の街全体がキャンパスの大学ビルと徒歩0分の国際学生寮は、そのためのプラットフォームの両輪です。

時代を先駆ける風になる。そのために地にどっしりと足をつけ、知の緑を粘り強く芽吹かせる。ともに行動していきましょう。



学部長予定者・教授 保井俊之 博士 (学術)

### Profile

1985年東京大学卒、財務省および金融庁など、パリ、インド並びにワシントンDCの国際機関や在外公館などに勤務したのち、地域経済活性化支援機構常務取締役、国際開発金融機関IDBの日本ほか5か国代表理事などを歴任。慶應義塾大学大学院で2008年から教壇に立つ。米国PMI認定Project Management Professional。日本創造学会評議員、地域活性化学会理事。

### 学部の理念

「自らが将来のありうべき社会像を創ること」、そのために、「自らが課題を発見し、解決策を立案し、他者と協働しながら、リーダーシップを発揮し、実行することを通じて、新たな社会価値を生み出すこと」です。

※「あってもよさそうな」「あってよい」という意味で、「あるべき」ではありません

### 学びの概要

英語コミュニケーション能力とデジタルスキル、論理的思考力、デザイン思考・システム思考の方法論を身に付け、リベラルアーツ科目\*の履修と、実社会の課題解決に取り組む課題解決演習、ボランティアやインターンシップなど海外を含む体験・実践プログラムを通じた実践的な教育を行います。学生は、自ら解決すべき課題を設定し、解決策の提案を行う卒業プロジェクトにおいて知識・能力の統合を図ります。

※中心となる主な学問領域は、文学関係 (芸術・文学、哲学・倫理学、心理学、文化人類学)、経済学関係 (経営学)、理学関係のうち環境学

## カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

### 知識・スキルの「修得」と「実践」で構成するカリキュラム体系

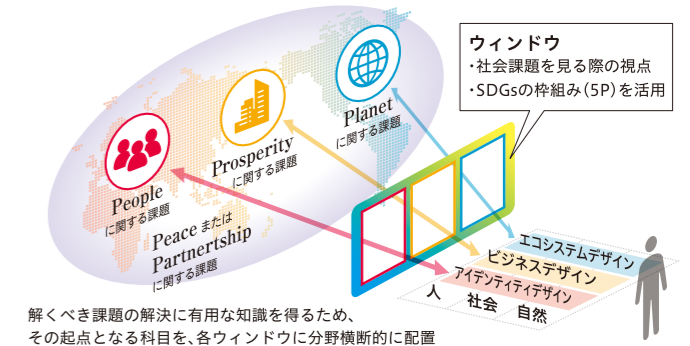
本学の教育課程は、ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針) に定めたコンピテンシー (資質・能力) を身に付けられるよう、「リベラルアーツ科目」「基本ツール科目」「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習」と「体験・実践プログラム」による「実践」を、学生の課題意識や学修状況に応じて履修し、学士力を培うカリキュラム体系とします。

### カリキュラムの全体構造

知識・スキルの「修得」	国内・海外での「実践」
■リベラルアーツ科目 ■基本ツール科目 ●ICT・データサイエンス ●思考系 ■実践英語	■課題解決演習 (PBL) ■体験・実践プログラム ●国内プログラム ●海外プログラム
卒業プロジェクト	

### 「ウィンドウ」のイメージ

ソーシャルシステムデザイン → 自ら創る「ありうべき社会像」



解くべき課題の解決に有用な知識を得るため、その起点となる科目を、各ウィンドウに分野横断的に配置

### ウィンドウの設定による学修

リベラルアーツ科目については、実社会における課題に対して、国際社会全体の持続可能な開発目標として設定されているSDGsの17のゴールを念頭に置きながら、複眼的・多角的視野やグローバルな視点から将来を見通すことのできる力などを養うため、学生が各自の興味・関心に依り、課題を見る際の視点となる「ウィンドウ」を選択し、各ウィンドウのテーマに有用な知識を修得できるカリキュラム構成とします。

### 実践的なグローバル・コラボレーション力の育成

実践的な英語カリキュラムや日英2か国語での授業履修、海外留学や海外プログラムなどを通して、グローバルに活躍し、多様な人々と協働できるコミュニケーション力を身に付けさせるとともに、海外から積極的に留学生を受け入れ、留学生と日本人学生が共に学び、切磋琢磨することにより、多様性を尊重し、異なる価値観などを有する他者とも相互に信頼関係を構築し、協働する力を涵養します。

### 実社会の多様な主体と連携した実践的な教育の導入

実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていくことができるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など学外の様々な主体と恒常的に連携を行うプラットフォームを構築し、企業などの多様な主体と連携した実践的な課題解決演習を行うことにより、本質的な課題を発見する力、統合的な解決策を戦略的に立案する力や、最後までやり抜く実行力を養うとともに、インターンシップやボランティア活動など海外を含む実社会をフィールドとした体験・実践プログラムを展開し、多様性を尊重して協働する力や実行力を養います。



# 知識・スキルの 「修得」

## アクティブ・ラーニング EIKEI standard

### 1クラス25人の少人数教育

より学生一人ひとりに応じた指導を行うため、原則として1クラス25人程度で授業を実施します。  
※英語集中プログラムは1クラス16人程度

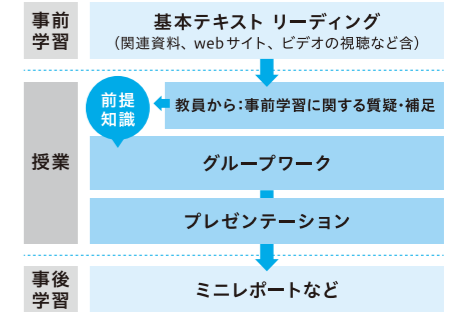
### 主体的に学べる100分授業

学生同士の対話やグループディスカッション、質疑応答の時間を多く確保します。そのための事前学習、事後学習を義務付けます。

### 2コマ連続授業だから集中して取り組める

1コマ100分の授業を2コマ連続で行うことで、同時期に並行して履修する科目が少なくなり、ひとつの授業に集中して取り組むことができます。

### アクティブ・ラーニング(基本モデル)



## SDGsを意識したリベラルアーツ



SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS) は国連サミットで採択された、持続可能な開発のための国際目標です。この実現を目指して、SDGsの17のゴールを国連が分類した5つのP (Peace 平和、Partnership 共創、People 人間、Prosperity 繁栄、Planet 地球) を軸として設定し、様々な学問分野を横断的に学修します。



## 学びの軸とする5つのP

### 基盤科目

5Pのうち、Peace (平和) とPartnership (共創) に分類されるリベラルアーツ科目については、学生全員が履修します。

5P	修得する知識
Peace 平和	平和な社会の構築や多様な主体との協働など、課題解決を行う上での思考・判断の基盤となる知識を修得
Partnership 共創	

### 発展科目

People (人間)、Prosperity (繁栄)、Planet (地球) の3つから、学生が興味・関心に応じて、それぞれに分類されるリベラルアーツ科目を履修します。

5P	ウィンドウ	修得する知識	主な学問領域
People 人間	アイデンティティ デザイン	多文化共生社会で人々の多様性を尊重する仕組みなど、社会課題に関する知識を修得	人文学関係
Prosperity 繁栄	ビジネス デザイン	グローバル化する経済・社会の仕組みや産業、技術発展などに関する知識を修得	経済学関係
Planet 地球	エコシステム デザイン	自然と共存しながら発展するための環境保全や生物多様性に関する知識を修得	理学関係 (環境学部分)

## 多様なキャリアを持つ教員陣

本学には、社会人経験を経て学問の道へ進んだ教員や、専門分野で様々な経験を持つ教員が揃っています。“変化の激しい時代を生き抜く学び”とは何か。教員自身の経験や研究を踏まえて学生の皆さんに伝えるだけでなく、共に考え、実践できる場を準備します。

### 粥川 準二 准教授

博士(社会学)

2020年春、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、いくつもの解決すべき「課題」が私たちの目の前にできました。新型コロナウイルス感染症が去っても、課題は存在し続けるでしょう。私の専門の社会学は「社会はどのように成り立っているのか?」を探るための学問ですが、その応用方法は無限です。授業で得られる知識やスキルは課題の解決に役立つはずですが、“アフター・コロナ”の社会課題に取り組む授業を、皆さんと一緒に試してみたいですね。



**Profile**  
愛知県出身。フリーランスのサイエンスライターなどを経て現職。

### 土本 康生 准教授

博士(政策・メディア)

あなたはコンピュータを上手に使えていますか? 新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中、情報通信技術 (ICT) を使える人と使えない人、活用できた国とできない国の間で大きな差が生まれました。ICTは世の中を変えられる大きな力を持っています。これから先、必ずしもICTのプロになる必要はないですが、どのような分野の仕事に就くにしても利用者としてプロであることが求められます。叡啓大学のツール系科目でICTを利用したレベルの高い仕事の仕方を身につけ、あなたの夢を実現して欲しいと考えています。



**Profile**  
ラジオ好き。好きが高じて番組に出演、自主制作していたこともあり。

### 上杉 裕子 教授

博士(学術)

叡啓大学はグローバル人材教育を目指しています。ではグローバルな人とはどのような人でしょうか? 英語ができる人? それとも海外経験がある人? その答えは叡啓大学にアリ! まずどんな科目でも英語で受講できるように、集中的に英語力を鍛えるプログラムでスタート。英語溢れるキャンパスでは毎日が英語のシャワー! その後、斬新かつ多様な方法により、海外で活躍できるグローバルマインドを培い、学生の国際力を向上させていきます。



**Profile**  
広島県出身。大学時代米国留学。高校教諭、高専准教授を経て現職。

## 62単位以上は英語で授業履修

卒業に必要な124単位のうち、62単位以上は英語での授業履修が義務となります。一部の科目(留学生を対象とした日本語集中プログラムなど)を除き、同一科目を英語と日本語両方で開講するため、全ての授業を英語により履修し卒業することができます。

## 4人に1人が留学生

1学年100人のうちの20人程度の留学生に加え、交換留学などにより滞在する海外大学の学生を含めると4人に1人は外国人学生となるよう、キャンパスのグローバル化を推進します。様々な文化的背景、多様な価値観を持つ留学生と日頃から英語でコミュニケーションを行うことで、多様性を尊重する国際感覚が身に付きやすくなります。

## デジタルリテラシーや 思考力の向上

IoTやAIなどが注目されるなか、本学でも、ICTおよびデータサイエンス、ロジカルシンキング、デザイン思考、システム思考など、今後の社会で必要とされるスキルの修得を目指します。

### ICT・データサイエンス

課題解決や事業立案などのツールとして活用できるよう、ICTやプログラミングの基礎、データを収集・分析して判断材料とする手法などを学びます。

[例]  
Webサイトやアプリの作成技法、分析結果を効果的に活用するための技法、IoTやAI、データサイエンスを活用して実社会の課題を解決する手法など



### 思考系

課題解決や事業立案に活用できるよう、論理的思考力を養うとともに、プロジェクトを進める手法や議論を促進し合意形成を図る方法などを学びます。

[例]  
ロジカルシンキング、デザイン思考・システム思考、プロジェクトマネジメント、ファシリテーションなど





# 学内・学外での「実践」

多様な主体をつなぐプラットフォーム  
EIKEI style

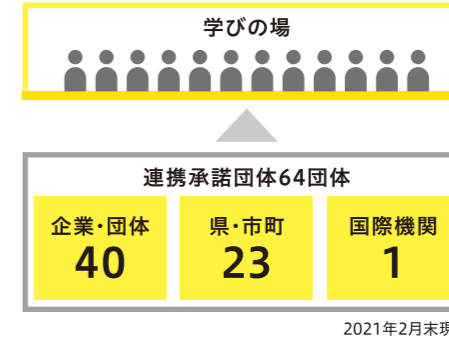
## 学びの場は“オール広島県”

実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていくことができるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など学外の様々な主体と連携を行う「プラットフォーム」をオール広島県で構築します。

## 連携承諾団体64団体の課題から学ぶ

企業や自治体の課題を演習テーマとして設定し、解決へのプロセスを実践的に学びます。自ら考え行動に移し、答えを導き出す基礎を養えるのも、観啓大学ならではの学び。連携承諾団体は、さらに増えていく予定です。

## 多様な主体をつなぐプラットフォーム



## 課題解決演習(PBL)のテーマ例

企業などのタイプ	課題タイトル(例)
民間企業(食品)	海外展開に向けた市場環境調査と消費者ニーズ把握
民間企業(IT)	新たなITサービスのアイデア創出
民間企業(交通)	データを活用したまちづくりサービス開発
民間企業(保険)	高齢ドライバーの事故を減らす取り組みの提言
自治体(市町)	少子高齢化の進行に伴う伝統文化の継承

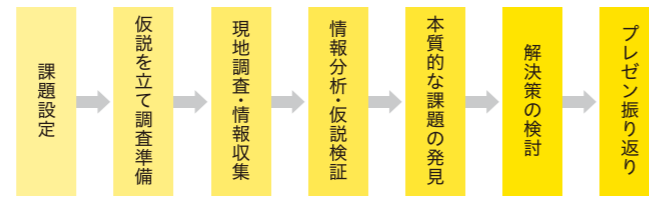
## 実社会のリアルな課題に挑む課題解決演習(PBL)



本学では、課題解決演習(PBL)をカリキュラムに導入します。1年次は「課題解決入門」を全員必修とし、学生は自らに足りない知識やスキルを自覚します。

2・3年次では、企業などから提供された課題の原因を探究し、解決策の提案までを行う演習に複数回取り組み、課題発見・解決力や他者と協働する力、やり抜く力などを養います。

### 課題解決演習(PBL)の流れ

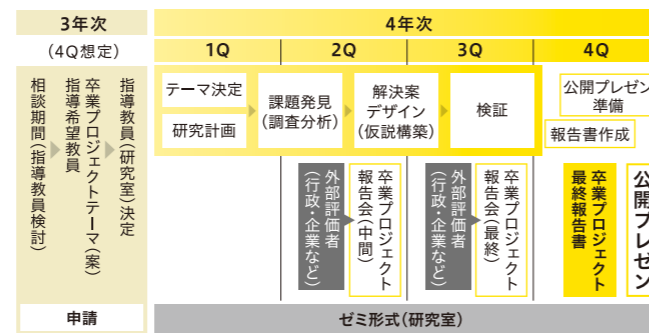


## 卒業プロジェクト

最終年次の1年間で、学生が自ら解決すべき課題を設定して、課題の原因究明から解決策の提案までを行います。

個別の卒業プロジェクトテーマに関する課題研究をゼミ形式で進め、中間・最終の2度の報告会を行います。報告会には、外部評価者として企業・行政などのステークホルダーを招き、それぞれの課題研究に対して、新規性、実現可能性などの観点からフィードバックをもらいます。学生はそれを踏まえて報告書をまとめ、公開プレゼンテーションの場で成果を発表します。

### 卒業プロジェクト(全体概要)



### 早田 吉伸 准教授 博士(システムデザイン・マネジメント学)

激しい環境変化を背景に、これまでの社会システムが機能しなくなっています。これは、私たち一人ひとりが自分ごととして解決していく問題です。そのために必要となるのが、自ら問いを立て、仲間と共に、仮説・検証を通してその答えを創造していく力、「デザイン力」です。身につけるには、実践しかありません。現実の企業や行政などとの共創経験は、皆さんの今後の人生の大きな財産になると信じています。さあ、一緒に学びのフィールドへ向かいましょう!



**Profile**  
NEC・内閣官房などでの実務活動を経て現職。地域活性化伝道師(内閣府)。

### 田口 陽子 准教授 博士(社会学)

大学は社会の一部ですが、社会から少し離れて学問に打ち込める特別な場所でもあります。この機会に、違う角度から物事を見たり、じっくり考えたり、新しいアイデアを試してみましょう。観啓大学では、学んだ知識やツールを生かして、学外のリアルな課題に取り組むことができます。これは私の専門である文化人類学のフィールドワークと似ています。それぞれの現場で異なる知恵や技術や価値を学ぶことで、皆さんの世界を豊かにしてください。

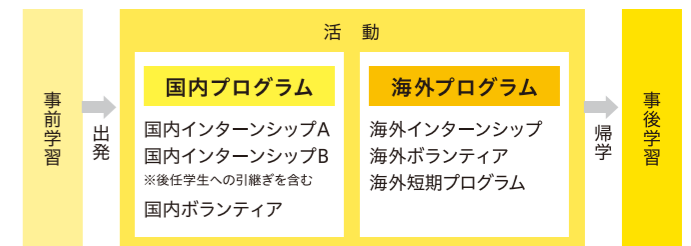


**Profile**  
インドをフィールドとする人類学者。一橋大学大学院講師などを経て現職。

## 多彩な可能性を広げる体験・実践プログラム

プラットフォーム参画企業や国際機関などと連携し、インターンシップやボランティア活動・留学などに取り組むプログラムです。在学中に一度は国外での活動を必須とし、4単位以上(2科目以上)を履修。担当教員の指導のもと、事前学習、事後学習を組み込んだカリキュラムで、プログラム活動の充実と学びの深化を図ります。皆さんそれぞれの興味や関心に応じて、プログラムを選択してください。

### 標準学修フロー



### 国内プログラム

科目	内容	期間
国内インターンシップA	2年次または3年次に、県内企業、市町や県の行政機関、国際機関などにおける日常業務の一端を担うことにより、積極的に社会への関心を高め、仕事に対する理解を深めます。	2週間から数か月程度 ※国内インターンシップBは4週間以上
国内インターンシップB	国内インターンシップBは、学生同士による引継ぎを想定したプログラムです。前任の学生から業務手法や成果を引き継ぎ、発展させ、また後任となる学生に業務の内容を引き継ぐことによって、業務への責任感と理解をより深め、新たな学びや気づき生まれることが期待されます。	
国内ボランティア	2年次または3年次に、県内で非営利組織の活動支援を行っている団体の協力を得て、地域おこしや災害支援、教育、外国人観光客対応などの活動に関わることで、自発的な社会貢献の経験を積みます。	

※インターンシップについては、PBLと同様に、プラットフォーム参画企業が主な受入機関となります。

### 海外プログラム

科目	内容	期間
海外インターンシップ	2年次または3年次に、海外でのインターンシップを紹介している民間団体の協力を得て、企業などでビジネスの実務を経験することにより、異文化への関心を高め、交渉能力、協働する能力を高めます。	2週間から数か月程度
海外ボランティア	2年次または3年次に、海外でのボランティアを紹介している団体の協力を得て、主に開発途上国で活動中のNGOなどにおいて実施します。社会背景の異なる環境下での体験を通して、現地の支援活動に貢献しながら、積極的に異文化への関心を高め、多様性への理解を深めます。	
海外短期プログラム	2年次または3年次に、学外協力機関が提携する大学や、本学独自の提携大学の中から選択し、海外大学でのサマースクールなどの短期プログラムに参加します。	

※学外協力機関との連携により実施します。

その他、観啓大学と交換留学協定を結んだ大学との交換留学(半年または1年)も可能です。

### 瀬古 素子 講師 Master of Science in Women's Studies

2020年以降、世界は新型コロナウイルス感染症という地球規模課題に直面しています。今般のパンデミックは人々の国際移動とともに広がり、過去何十年分の政治・経済・社会的なグローバル化を逆行させました。しかし世界的な課題は国境を越えた協力や相互理解、多様性を前提とした協働なしには克服できません。正答のない様々な課題に挑むことは国際協力の醍醐味であり、海外での実務体験は皆さんの学びや思考により多くの刺激を与えてくれるはず。共に世界に足を踏み出していきましょう。



**Profile**  
国際機関職員・JICA専門家として4大陸9か国での勤務を経て現職。

### 交換留学協定締結予定校(協議中)

現在、交換留学協定の締結に向けて、世界9の国や地域の12大学と協議を進めています。交換留学先は随時拡大していきます。※学外協力機関を窓口として、その他の大学への留学も可能です。

